

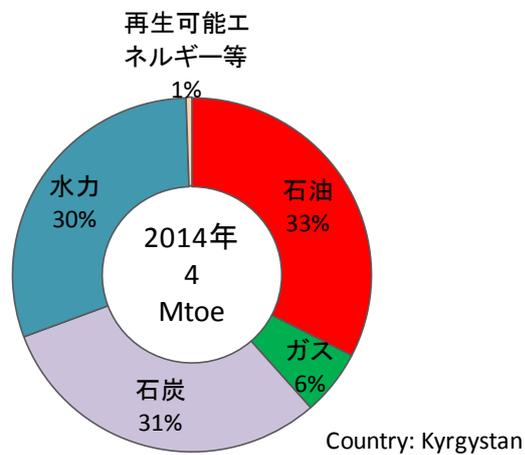
2-21 キルギス

1. サマリー

1. エネルギー事情

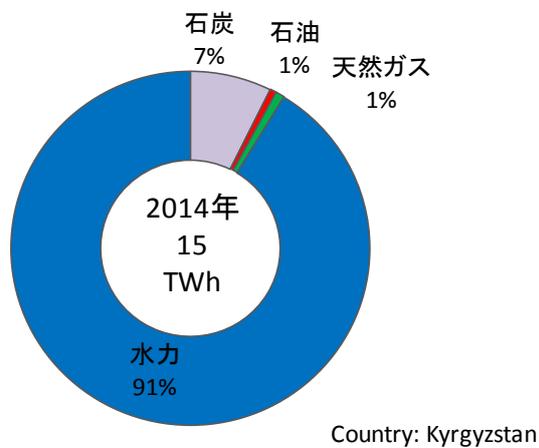
- (1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : 4 百万 toe (日本の 0.01 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : 0.65toe (日本の 0.19 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 50%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 8.4 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 0.7%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2013年) : 1.43 CO₂ 換算 ton (日本の 15.3%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 該当データなし

一次エネルギー供給構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- エネルギー・産業省 (Ministry of Energy and Industry)がエネルギー市場および産業を所管していたが、2015年12月の新組閣時に同省が廃止され、機能の一部が新設のエネルギー・ホールディングに移管された。

(2) 基本政策

- 電源の大部分が水力であることから発電電力量は河川の水量の影響を受け、春から夏にかけて多く、電力需要が比較的大きい冬に少なくなる。このため、夏期は電力を輸出し、冬期は輸入を行っている。キルギスは化石燃料供給の多くを輸入に依存していることから、未開発の水力資源を最大限に開発するとともに、エネルギー消費構造を電力へとシフトすることを目指している。

(3) 最近の動向

- 2015年10月4日にキルギス議会選挙が行われ、Atambayev 大統領が設立した社会民主党が第1党となった。この結果を受けて、Atambayev 大統領は、内閣総辞職に関する命令に署名した。その後12月5日に、前首相の Temir Sariyev を首班とする新政府を任命した。旧閣僚の大部分が留任する一方、副首相は4人から3人に減った。また、エネルギー・産業省は廃止され、その機能の一部は新設のエネルギー・ホールディングに移管された。
- 2016年1月、エネルギー部門のガバナンス改革のために、国営の持ち株会社が設立された。
- 2016年11月、内閣総辞職に伴い新首相に Sooronbai Zheenbekov 氏(57)が再任した。Sooronbai Zheenbekov 氏は2016年4月、Temir Sariyev 前首相が汚職疑惑を追及され辞任した後、首相に就任していた。他の主要閣僚では、経済問題担当の Oleg Pankratov 副首相も再任された。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2013年2月、Almazbek Atambaev 大統領が来日し、安倍首相と首脳会談を行った。エネルギーを含む様々な分野で協力を強化していくことが表明された。
- 2014年7月、第5回「中央アジア+日本対話」がキルギスの首都 Bishkek において開催され、岸田外相が参加した。中央アジアからはカザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンが参加し、経済協力全般が協議された。
- 2015年10月、安倍首相は歴代首相として初めてキルギスを訪問した。道路整備など137億円規模の支援を行うことで合意した。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Kyrgyzstan

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量		4 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		0.65 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.65 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		50 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量		8.4 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量		1.43 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	31 %
	石油	33 %
	天然ガス	33 %
	原子力	0 %
	水力	30 %
	再生可能エネルギー等	1 %
(8) エネルギーの輸入依存度		50 %
(9) 石油の輸入依存度		93 %
(10) 輸入原油の中東依存度		- %
(11) 原油の輸入先	第1位	-
	第2位	-
	第3位	-

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA